別記様式

担当課	教育部　教育総務課

会議の名称	第２回　鴻巣市立小・中学校のあり方研究懇話会
開催日	令和２年７月１日（水）
開催時間	午前１０時００分　開会・午前１１時４８分閉会
開催場所	鴻巣市役所　本庁舎　３階　３０３会議室
出席者(委員)氏名 (出席者数)	石﨑一記、日比曉美、酒巻和生、羽鳥守、牧田卓司、林義典、荻野浩、鷹巣美和、鉢村優子、川島快友、佐藤芳隆 （１１名）
欠席者(委員)氏名 (欠席者数)	なし
事務局職員職氏名	教育長　武藤　宣夫 教育部長　齊藤　隆志 教育部参与　野本　昌宏 教育部副部長　清水　千之 教育部副部長兼学務課長　大島　進 教育総務課長　鳥沢　保行 教育総務課副課長　藤平　健司 教育総務課副主査　新井　洋平 （８名）
傍聴の可否 (傍聴者数)	可（傍聴者４名）
会議の内容	（議題） １　開会 ２　あいさつ ３　懇談内容　　第１回懇話会での意見を踏まえた検討 ４　その他 ５　閉会

（決定事項など）

３　懇談内容　　第１回懇話会での意見を踏まえた検討

教育委員会より、笠原小学校については、今後、児童数の減少が見込まれる中で、条例上、廃止する方向での検討を考えており、あり方懇話会でも、今後どのように進めていくか等、意見をいただきたいと伝える。

（懇話会委員の主な意見）

・今年度、１年生が初めて０人になったこともあり、地域の人たちは集まると笠原小学校が廃校になるのか、存続するのかという話題になる。
地元としては廃校の話は聞きたくなかったが、ごみ処理場も出来て、学校もなくなり、若い人が出ていったきり戻らないのではないかと危惧している。
笠原という地域を、今後どう考えるか。そのような議論をしていきたい。

・笠原小学校は歴史のある学校であり、地域の心のよりどころであるため、廃止に反対の方たちの思いも汲んで慎重に議論し、加えて、自然消滅は避けるような、結論を出していきたい。

・学校の廃止ではなく、統合して新しい一つの小学校を造るという考えが良いのではないか。
今年の１年生の皆さんが鴻巣中央小学校を希望されたということが、保護者の方の負担も想定されたうえで、当事者の意思表示であると受け止めざるを得ない。尊重されるべき。
自然消滅を待つのではなく、新しい鴻巣中央小学校を造っていくという方針を出すことはやむを得ないと考える。

・廃校に向けたスケジュールについて、5～6年先というのであると、何もしないのと同じであり、今後、笠原という地域をどうするかという議論が何も進まなくなると思う。
来年の４月からは現実的に難しいと思うが、スピード感を持ちつつ慎重に議論を進めるということであれば、その次の４月ということが現実的ではないか。
例えば、１年半を目途に進めるのであれば、どのようなスケジュールで進めるか、綿密な計画を、地元の方々の意見を聞きながら進めてもらいたい。
笠原小学校がなくなったのではなく、統合して新しいものが出来た、いつまでもお世話になっていると思わないような仕掛けが必要と考える。

・子どもたちが、母校と思えるようなイベントやセレモニーが必要と考える。
その際には地元の方にも廃止反対というのではなく、どのように移行していくのが子どもたちや地域のためなのか、知恵や力を出してもらうことが良いのではないか。
加えて、跡地をどう活用していくかということに対して、地元の方々の力を借りていければ良いのではないか。
これらを実施するにあたっては、１年半は足りない時間ではないと思う。
児童と保護者の方々をいつまでも迷わせておかないという意味でも、ある程度の期間を決めて実行することを、地元と教育委員会には期待したい。

	・今まで保護者の間でも、廃校に関する様々な意見があったが、今までは教育委員会から廃校等の案がなく不安だった。方向性を示してくれれば、保護者の中でも一歩進んだ意見が出し合えるのではないかと感じている。 ・笠原小学校は 147 年の歴史があり、少ないながらも楽しい教育に教職員が全力で取り組んでいる。また、人数が少ないことが、コロナの影響禍においてメリットとして出ており、体育館にも集まれ、分散登校も必要ない。 ただ、1 年生 0 人ということで特に 2 年生がお兄さん、お姉さんになっての活動ができないことは非常に厳しい。 来年は何名入ってくれるか期待しているが、今後廃校となる道筋があるとしても、そこまでは、他校と同様に学んでいくようにしたい。来年は児童数がこれ以上減らないように期待している。 ・統廃合については、笠原小学校と鴻巣中央小学校が市内で初めてのケースであることから、他の地域にとって、良いイメージとなるような方法を地域、保護者、教職員と互いにアイデアを出し合っていきたいと考えている。 ・廃校という言葉が会議に出たのは初めて。廃校なのか統合なのか意味が違うと思うので、判断してもらいたい。 ・コロナウイルスの影響もあり、少人数クラスで授業を行うという話をよく耳にするが、基本的に子どもたちは色々な友達と接することが、まずは学習の向上よりも重要かと思う。 小規模だとクラス替えがなく、6 年間同じクラスでやっていく学校と、クラス替えもあり、新たな出会いもある中でやっていく学校、これが必要であると思えばそれを実施していく。 今、12、3 人は他校と比べ過少である。他校では実施している、クラス替えやクラブ活動、上下関係等、色々な集団での教育活動が、今の笠原小学校ではできないと思う。 地域の方々には、子どもたちにより良い教育環境を提供することを先に考えてもらって、その後、地域の歴史を維持できるような、また、跡地で新たな活動ができるよう、協力していくべきである。 ・一クラスの人数が多すぎると、一人一人に寄り添った指導をしたくても出来ないという意見もある。9 月入学の議論があるが、それよりも、30 人学級を早くしてほしいという識見者もいる。 ・欧米では個を大切にして、一クラスの人数は 12，3 人と少なく、クラスを 4 人くらいの教職員で受け持っている。このようなクラスで育った子の間にはイジメ等はないと聞く。 一斉授業を実施しないことや、AI の活用等を小学校から取り入れている。鴻巣市が子育て環境日本一のまちに進んでいくため、そのような事例についても今後考えてもらえればと思う。 ・安養寺地区に関しては、通学区域の弾力化の中で、鴻巣北小学校に通学している方もいると思うが、地域が同じ学校に通うのはもちろんであるが、例え、学校は違っても地域に帰れば、一緒の行事に参加するといった考えを持っても良いのではないかと思う。

	・小学校が分かれるということは、地域の分断になるため、避けたい。 地元の会合等で、今後どのように地域で進めていくか悩んでいる。 地域の中で、上下の関係を維持できる仕掛けができるか検討していくのはどうか。 ・統廃合については、子どもたちの教育環境をどう守るかが根幹であると思うが、1年生全員が鴻巣中央小学校を選んだということは、保護者の意思表示のため、受け止めるべきであり、これを受けて、今後はどのようにして笠原地区の子どもたちが健やかに育ち、鴻巣中央小学校でしっかりと居場所を持てるようにするかが、地域の役割でもあり、協力していくことが大切だと思う。 ・地域の方々の疑問点は慎重な対応で取り除かれていけば良いと思う。 ・分散登校等を実施すると、適正規模校以上であっても、子どもたち一人一人の様子を見ることができたので、そのような機会は大切だと思った。 その後、全員が一斉に登校してきたが、また違った状況により、子どもたちの新たな一面が見えた。 このことから、少人数であることのプラス面と、人数が多くなった時のプラス面がともにみられ、子どもの表情はそれぞれだと思った。 市内全体として言えることだと思うが、一人一人を見ることと、人との関わりを身につけさせることの大切さを考えさせられた。 ・統廃合に関するスケジュールについて、どのように進んでいくのか、他市の事例を参考に、考え方をわかるようにしてもらいたい。 ・廃校という話があると、教職員として不安はあるが、全力で取り組んでいる。中学への進学等、大きな集団に入っていくといった際には、より児童への教育には力が入ると思う。 ・全員が納得するような結論は導けないと思う。 統廃合の問題については、まず、児童について、新入生を受け入れるのか。全員で送り出すのか、徐々に転校するのか、検討が必要だと思う。 ・統廃合についてはその後の実態だと思う。 学校の名前や校歌等については、仮に変更したとしても、実態として笠原小学校がないと考える子や保護者、地域の方々もいると思う。 だとすれば、例えば校外の自然学習施設として跡地を活用し、どこの学校に通学していても、笠原小学校で農業体験や地域との交流を実施する施設として存続するという形であれば、廃校という気持ちではなくなるのではないか。 ・この懇話会は、まちづくりについて考える会議体ではないと思うので、まちづくりに関しては、別の会議体で検討する必要があると思う。 ・小学校を地域においてどう活用していくかということを、この懇話会で考える手法もあるとは思うが、むしろ地域の小学校の活用については地域の方が検討した方が良いのではないかという考えもあると思う。 ・徐々に転校することは学校運営上、課題が多いと思う。 保護者や教職員の負担を考えると、全員が一斉に転校することが良いのではないか。

	・通学区のこと、地域のこと等、慎重な議論をすることで、大きな問題もなく次のステップに進めると思う。 ・市全体を見た、大きな計画の中で、笠原小学校を始めとして、他の学校の今後に関する検討をした方が良いと思う。 ・来年は笠原小学校への入学予定の児童の保護者は、現状、１年生が０人ということで、鴻巣中央小学校を選択する気持ちが強いと思う。 ・世帯数が少ないため、保護者は小学校と地区の役員が負担となっているため、地域の方の協力は非常に大きいと感じている。 ・鴻巣中央小学校と笠原小学校では保護者の関わり方も違うと思う。受け入れ側の体制も必要であるため、両校関係者での検討が必要。 ・現在、実施している登校支援について、今後、状況が変わった場合には、在校生を含めた支援を検討していくこととなる。 ４　その他 ５　閉会
配布資料	① 第１回鴻巣市立小・中学校のあり方研究懇話会での意見 ② 令和２年度児童数・学級数について ③ 鴻巣市立小・中学校児童生徒数及び学級数の推移（見込）

注　会議の内容の欄は、主な意見や質疑内容を交えて概要を記入し、記入事項が多い場合は、別紙に記入するものとする。